

いじめ撲滅にむけた取組み事例 一 道徳を基盤にして一

行田市立星宮小学校

1 本校の紹介

本校は、児童数70名の小規模校である。行田市の西に位置し周囲を田んぼで囲まれた自然豊かな環境にある。明治19年開校の歴史と伝統ある学校で保護者のみならず祖父母も本校の卒業生が多い。そのため学校への愛着は大変深く本校の教育活動への関心も高い。そのためPTA活動や学校応援団、見守りボランティア活動にも協力的な地域、保護者である。

☆学校教育目標

「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」

- 考える子 (きらきら)
- なかのよい子 (にこにこ)
- きたえる子 (ぐんぐん)
- はたらくこ (いきいき)

小規模校のよさを生かし、「少人数のまごころ指導」の実践と異年齢集団の日常化、人との絆を2倍にする教育活動の展開を目指し日々の活動にあたっている。

今年度の本校研修教科は算数で、研修テーマは「自ら考え、生き生きと学び合う児童の育成 一表現力の育成と確かな学力の定着一」である。

児童70名は、素直で明るく活動的である。研修テーマに表現力を挙げた通り、少人数の中で生活しているせいか、多くの人前で自分の考えをはっきりと発表できなかったり、固定された人間関係のためなれ合いが生じたり、新しい環境に順応するのが難しいなどの課題も抱えている。

本校では、年2回の児童アンケートを実施し、児童理解に努めている。その結果から現在までのところ、いじめのような問題行動は発生していない。更なるいじめ撲滅の予防策として、道徳の時間を基本に学校教育活動全般を通して、豊かな人間関係を作る取組み事例を述べます。



星宮小学校

めざす学校

豊かな心を持ち たくましく生きる子どもの育成

学校教育目標

○考える子

○なかのよい子

○きたえる子

○はたらく子

めざす児童像

「きらきら」「にこにこ」「ぐんぐん」「いきいき」

- ・たくさん読む子
- ・暗唱する子
- ・たくさん書く子
- ・よく聞く子
- ・よく話せる子

- ・あいさつする子
- ・返事のできる子
- ・ありがとうが言える子
- ・気持ちがわかる子

- ・体を動かす子
- ・挑戦する子
- ・粘り強い子
- ・汗を流す子

- ・そうじをする子
- ・助け合う子
- ・お手伝いをする子
- ・励まし合う子

めざす学校のすがた <学び合い・認め合い・高め合う温かい学校>

○子どもの明るい声が響く学校

○安全で清掃された学校

○わかる授業に取り組む学校

○助け合い・励まし合いのある学校

○家庭や地域に開かれた学校

○学ぶ喜びを味わう子をめざして

- 1 指導計画に基づく着実な実践
- 2 自ら学ぶ意欲の高揚
- 3 基礎・基本の徹底
- 4 学習習慣の定着
- 5 一人ひとりのよさや可能性を伸ばす学習指導の工夫
 - ・分かる授業の展開
 - ・個に応じた学習指導
- 6 地域や人とかかわり、たくましく生きる力の育成
 - ・地域素材の教材化及び地域の教育力を生かした学習指導
- 7 体験的・問題解決的な学習の充実
- 8 学校教育環境の整備充実とその活用

○創造性と豊かな心をもつ子をめざして

- 1 基本的な生活習慣の徹底
- 2 積極的な生徒指導の推進
- 3 認め合い、励まし合える学級経営の推進
- 4 道徳教育の充実（「心に響く」道徳授業の展開）
- 5 「生命や心」の大切さを学ぶ飼育栽培活動の充実
- 6 人格尊重の教育の推進
- 7 にっこにこ・びっかびか・びっかびか運動の充実
 - ・重点課題の解決に向けて、合言葉で活性化を図る。
- 8 勤労生産・奉仕活動の推進
- 9 国際理解教育の推進
 - ・英語活動の充実

○たくましく生きる子をめざして

- 1 めあてをもたせた健康・体力づくりの推進
- 2 体育学習の充実
 - ・一人一人が伸びる喜びを味わえる体育授業の充実
- 3 体育の生活化
 - ・全教育活動を通じた体力向上策の推進
- 4 健康づくりのための環境整備と安全指導の推進
- 5 保健学習・保健指導の充実
- 6 学校安全・給食指導の充実
 - ・日常生活に潜む危険に気づき、行動実践
- 7 家庭や関係機関と連携した健康の増進

2 実践内容

① 道徳教育の指導計画の作成

・道徳教育年間指導計画

「彩の国の道徳」の資料を各学年、学期ごとに1時間入れるために年度末の確認をしてもらった。また、「彩の国の道徳」の保護者への啓発を図るため、資料を使った授業を保護者へ公開してもらうように年度初めに計画を立てた。授業で全クラスで実施してもらい保護者への啓発を図る。また、主な発問例や心のノートの活用、地域人材活用例等も年間指導計画に明示した。

・学級における指導計画

全担任が学級経営案に綴り、道徳授業の計画的な指導のために活用する。記入にあたっては若手教員への支援を丁寧に行う。学期末には学期ごとの反省点、改善点を記入し管理職に指導を仰ぐため、締め切りの期日を明確にして集める。

② 全教育活動における道徳教育の推進と充実

☆ 校長室からの発信

本年度の重点課題を「あいさつ」「思いやり」「清掃」とし、合言葉の「にっこにこ」「ぽっかぽか」「ぴっかぴか」運動を実施している。この運動については、全校朝会で校長講話として児童に紹介され、学校便り、校内掲示、ホームページ、懇談会等で教職員、保護者、地域にも発信され、共通理解のもとで行われている。

全校朝会の校長講話では、毎月1項目にしぼり児童の頑張りや改善点などを挙げ、意識の浸透を図っている。

また、本年度は、日本語の美しさを感じたり、表現力を豊かにしたりするために「星の子暗唱チャレンジタイム」を設けている。近年、社会における礼儀作法の在り方が問われているが、校長先生に暗唱を聞いていただき、ただ単に文を暗唱するだけでなく、校長室の入り方やお願い事をする時の挨拶の仕方、目上の人との話し方なども審査と対象としている。児童は合格の印をもらおうと、一生懸命に暗唱し基本的な礼儀作法も身につけようとしている。さらに校長との会話をとおして児童一人ひとりとの交流を図り、親しみやすい学校づくりを目指している。校長の意に対して資料作成や全職員への啓発に徹している。



(合言葉の掲示資料)



(星の子暗唱チャレンジタイム)

☆ 教育に関する3つの達成目標との関連

前年度に実施された「教育に関する3つの達成目標」の結果をまとめ、年度初めに学力基本的生活習慣・体力向上の部会を設定し、1年間の重点事項を決め、改善策等を考えている。

また学期に1回「星の子よい子の生活」という児童向けの自己評価カードを書かせ、生徒指導主任が中心となり、児童の現状や課題を明確にし、指導方針を立てなおしたり、道徳的实践力の育成に結びつけて具体的な取り組みを考えたりしている。

星の子よい子の生かつ

よくできた・・・◎ できた・・・○ もうすこし・・・△

が ん ば る こ と 7/7~7/11	月	火	水	木	金
じゅぎょうのはじまるじこくをまもることができた。					
つくえやロッカーのせいりせいとんができた。					
げんきよくあいさつができた。					
「ありがとう・ごめんなさい」がいえた。					
はなしをさいごまできくことができた。					
人のあつまるところでは、くちをむすぶことができた。					

(児童向けの自己評価カード)

③ 道徳の時間の充実と指導体制

☆ 本校研究主題と道徳教育のかかわり

本校の研修主題「自ら考え生き生きと学び合う児童の育成」のサブテーマのキーワードである「表現力の育成」は研修教科の算数だけではなく道徳教育も含め全教育活動で培っていくものである。本研究を通して道徳の授業の中での「表現力の育成」について考え、充実した授業が展開できるよう日々研修を積んでいるところである。

道徳的实践力の育成

<ul style="list-style-type: none"> ・資料活用の工夫 ・発問の工夫 ・学習過程の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深め、豊かに表現することができる学習形態の工夫（ペアでグループで） ・言語活動の工夫
--	--

☆ 家庭・地域に協力を依頼しての授業実践

各学年の内容項目「家族愛」の授業で、ねらいとする価値を深めるために家族からの手紙やメッセージを書いていただき、終末に活用したり、保護者の子どもの頃の体験談等を作文にして資料として活用している。



☆ 授業公開を通じた研修

初任者研修による道徳の師範授業や新任者による研究授業に全職員が参加し、お互いの授業力が高められる場とした。また、新任者に配布される「教師となって第一歩」に記載されている「道徳教育について」を資料として、全職員が再度道徳教育の大切さをするために研修した。

④ 道徳用教材の整備・充実・活用

☆ 資料作り

単学級の利点を生かし、授業で使用した場面絵やワークシート、小道具、板書資料等を学級の戸棚に保管し、来年度も使えるようにしている。また、夏季休業中の研修を使って資料室を整理し、学級で保管できないものは、そこにおけるよう整備をした。

☆ 埼玉県道徳教材資料集「彩の国の道徳」の積極的な活用

前述の通り年間指導計画に埼玉県道徳教材資料集「彩の国の道徳」の指導を位置づけてあるが資料集の中には授業以外にも学校生活の様々な場面で活用できる資料が含まれている。それらの資料を教室掲示したり校内読書活動の推進の一助としたりしている。

また、「彩の国の道徳」の各資料の場面絵をすべてプリントアウトし、積極的な活用を図っている。



⑤ 道徳教育の情報提供や情報交換

☆ 学校便りやホームページの活用

道徳に関わる内容や3つの達成目標（規律ある態度）に関する事、道徳性を高めるための保護者や地域への協力要請、学校での取り組み等を学校便りやホームページで取り上げ発信している。

☆ 情報収集・情報発信

道徳授業研究会への参加、県教委から発信される情報、指導案、実践事例などを研修の時間や職員会議等で紹介する。また、職員室の書棚を整理し、いつでも資料が見られるようにした。

☆ 「彩の国の道徳」の普及啓発と授業研修

「彩の国の道徳」についての説明用資料（Power Point で作成）を作成し、年度初めに全職員で研修したり、保護者会での資料としたりして普及と啓発に努めている。

⑥ 授業公開など家庭や地域社会との連携

☆全クラス道徳公開授業の実施

年3回ある学習参観の機会に必ず1回は道徳の授業を保護者に公開している。その際、授業のねらいを保護者に知らせ、学習後は家庭で授業の内容について話題にしてもらうよう呼びかけている。



☆地域との連携

本学区は豊かな自然環境と、豊富な地域人材のお陰で、児童の道徳的実践力を育てる上では、これ以上ない学習環境にある。それらを年間指導計画に位置づけ効果的に活用するようにしている。

○自然愛・動植物愛・勤労



5年生・田植え



4年生・麦刈り



全校で飼育するウサギ

○尊敬・感謝、思いやり・親切



老人ホームのお年寄りとの交流会



おまつりを通じた地域とのつながり

☆道徳教育の研修の充実

本校の今年度の研修教科は算数であるため、授業研究の大半は算数であるが、新任研修も行っているため、新任者の道徳の授業をもとに授業研究の機会を設けている。

研修の観点として、

- ①話し合いを深めるための工夫
- ②発問の工夫
- ③効果的な資料の作成

この3点を押さえて研修を行っている。



また、埼玉県ホームページに掲載されている「彩の国の道徳」指導案や指導資料集、学力向上の支援マップ（東部教育事務所）を使って、資料分析や発問研究などを校内研修に位置付け日々の道徳の授業に生かせるような研修も進めているところである。



⑦ その他の取組

☆『仲良しアンケート』の実施

年間二回実施している。児童の心の内を把握するために行い、問題行動の早期発見に努めている。特にいじめられている友達が自分の周りにいないかどうかを問い、よりきめ細かな児童把握がなされるように気をつけている。さらにその結果を全職員で話し合い、改善策を共通理解できるようにしている。

☆職員会議の中で

毎月行われる職員会議の中に教育相談会を設けている。各学級の児童の様子について交流し、問題行動の早期発見と改善の様子について話し合っている。少人数のよさを生かし、児童の様子を多面的に把握するために、担任以外の職員にも発言してもらっている。

